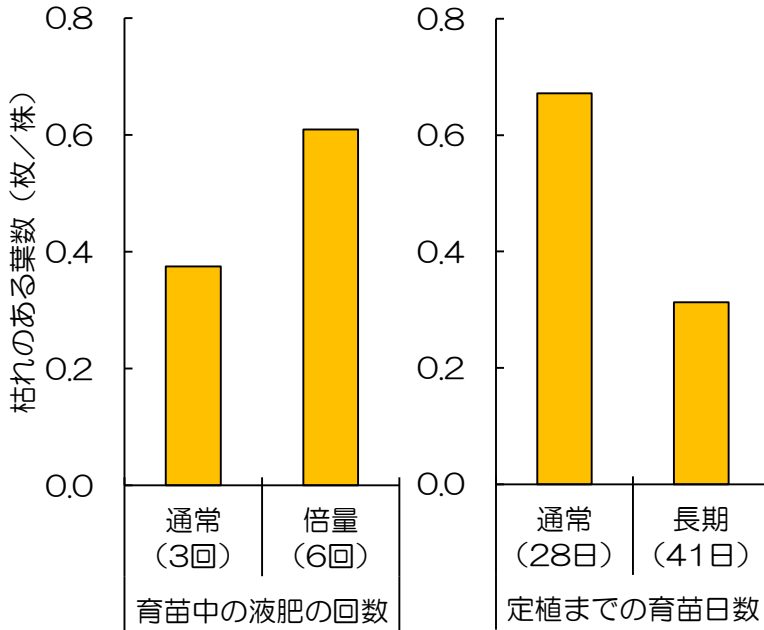


蒜山高原で夏の定植に 適したキャベツの育苗方法



灌水を抑えめにして37日間育てた苗
(葉は黄色っぽい、硬めで枯れにくい)



灌水を多くして29日間育てた苗
(葉は緑だが、柔らかめで枯れやすい)



開発のねらい

準高冷地の蒜山高原では、近年需要が伸びている加工・業務用キャベツを7～10月に出荷していますが、夏の高温期に定植すると葉が枯れたり生育が不揃いになりやすいため、夏の定植に適した苗の作り方を明らかにしました。

新技術の概要

- 液肥の施用回数を増やさずに、通常より長い41日程度育苗することで、硬めで乾燥に強い苗となり、定植後に葉が枯れにくくなります(左図)。
- また、灌水の回数を多くしないことでさらに硬めの苗(右上写真)となります。
- このような硬めの苗でも、結球重はこれまでと同等になります。

活用場面

本技術は、真庭市蒜山地域を中心とした準高冷地に活用できます。
単価の高い夏の生産が安定するため、農家所得の向上が期待できます。